

# 1つの選挙の終わりは次の選挙の始まり

大竹 進さま

青森県を変えよう！大竹さんと進む私たちの会の皆さま

お久しぶりです。選挙期間中は本当にお疲れ様でした。そしてお世話になりました。楽しかったです。

今夜、遠藤順子医師からのメールで送られてきた、進め！ドクター大竹の会会報7号を拝読しました。

私は5月31日から6月4日まで選挙事務所でお世話になりました神戸市在住の高橋精巧と申します。

6月7日の投票日当日は、仲間と沖縄名護市にいましたが、青森県知事選挙の結果が気掛かりでした。

結果はネットで知ったと思いますが、翌日の沖縄タイムスと琉球新報の小さな記事でも確認しました。

最近、様々な選挙に携わって「1つの選挙の終わりは次の選挙の始まり」と思えるようになりました。

会報を拝見して、私の思っていた通りの内容でしたので安堵しました。4年後も青森に行かなければと決心しました。

選挙事務所に行ったとき、事務局長の古村一雄さまが「このメンバーで、何か金儲けできないかなあ〜」と突然おっしゃいました。どうしたことかと私なりに推測しました。様々な人々の集まりである選挙事務所の中は、核燃・原発のない青森県の実現のために皆が協力し助け合って楽しい雰囲気でした。プロマネとして、事務所の雰囲気がとても心地良かったので、このチームなら何でもできると感じられたのではないかと思います。

私はアナログ人間ですからFBやTwitterはしませんので、情報は口伝えが多い関係で拡散は弱いですが、選挙期間中、関西や沖縄の人たちに、「今、青森県で知事選挙が行われているが知っているか？」と聞いて回りました。結果は、ほとんどの人が知りませんでした。取り残された青森県だと感じました。

「オール沖縄」は知事も市長も議会も地方紙も皆な沖縄県民と一緒に政府の理不尽とたたかっています。

戦後70年の成果です。それを全国の人知っていて、辺野古や高江には全国から入れ替わり立ち代り訪問客があり、原発反対・基地反対などの運動をする上で、沖縄訪問は、一つのステータスシンボルです。

今回の選挙で、「オール青森」を謳い文句にしましたが、地方紙も市町村の首長も議会も皆な味方ではありませんでした。また、全国の話題ともなりませんでした。孤立無援です。残念ですが、それだけにやり甲斐もあります。次回4年後の知事選に向けて、「何をなすべきか？」である。

3.11以後、日本社会は変わってきています。原発の再稼働反対、辺野古への新基地建設反対、そして戦争法案反対のうねりが沸き起こり、若者も街頭に出てきています。原発問題では、青森県は特別の県です。

また、基地問題でも、三沢米軍基地、車力Xバンドなど、青森県には負の遺産がたくさんあります。未来にそれを残すのか？は一人ひとりの大人に問いかける問題です。沖縄から何を学び何を学べないか？学習が必要です。沖縄は保守が変わった。地元経済界が変わったことが「オール沖縄」にとって必要なことであった。青森市の夜は寂しい。那覇市の夜は、国際通りには香港、台湾など観光経済で基地はなくても暮らしていける。観光で経済が潤うことには賛成できないが、そのことで、新基地建設反対も県民民意が形成できたのであれば、よりマシである。「青森の経済をどうするか？」これがキーワードかもわからない。

青森経済が核燃・原発と基地に依存している様に思わされている限りは、選挙は勝てないようにも感じる。

最大の難関は①地元紙対策、②地元経済界対策、③保守対策、・・・分らなくなりました。

何も分からず勝手に書いてしまいました。これからは、青森に気をおいて生きていきたいと思えます。

高橋精巧（神戸市）